

アグリカルチャーR&Dセンター

所在地	愛知県豊田市
運営主体	豊田鉄工株式会社
施設形態	完全人工光型植物工場
施設面積	750 m ²
栽培品目	ベビーリーフ
生産能力	80kg/日



1 取組の経緯

自動車プレス部品の製造事業を展開してきた豊田鉄工株式会社は、新たな挑戦として、「食」、「農業」に着目し、地元の露地野菜と市場競争をしないベビーリーフの生産に取り組むため、平成30年5月に愛知県豊田市に植物工場を稼働した。

2 生産の概要 ～総合的品質管理とトヨタ生産方式の導入～

栽培室では、特定のピーク波長を持つ植物専用のLEDを利用し、照射時間、温度、CO₂濃度等の環境条件を自動制御する総合的品質管理により、栽培環境を厳密に管理し、安定した品質と生産を確保している。

また、生産には、トヨタ生産方式を導入し、作業員の移動が少なくなるよう設備を配置し、動線を短くすることや作業姿勢への配慮等により作業への負担を通常の1/5程度とするなど、作業のムラを排除した効率的な手順を実施している。



3 販売の概要 ～スーパーを中心とした販売～

水菜やルッコラなどの8種類のベビーリーフ全てが入った商品の他、特定の栄養素を多く含むように4～6種類をミックスした商品を東海地域のスーパーや飲食店を中心に販売している。



4 今後の課題・展開 ～コスト削減と販路の拡大～

徹底的なムダの排除により、更なるコスト削減を目指している。また、ベビーリーフは、今後ますます需要が伸びる可能性があると考え、年間販売量30トン、売上高1億2千万円を目指して、販路の拡大と確保に向けた検討を行っている。